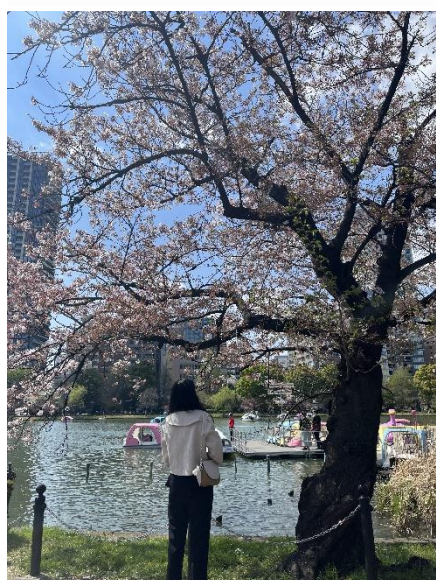


お茶の水女子大学での一学期

同徳女子大学
チェユジン

暖かい春に始まった留学生生活がいつのまにか最後を迎えつつあります。なんとなくすっきりした寂しさが押し寄せてきます。馴染みのない場所での生活は、不安と混乱の連続でした。留学の序盤はここで約6カ月耐えられるかという心配も大きかったです。しかし、今にして思えば、そのすべてが大切な思い出の一編になったように思います。

お茶の水女子大学で一番成し遂げたかったのは「挑戦的な自分になること」でした。慣れて簡単な道を探すよりは勇気を出して新しいことを探求しようとする姿勢を身につけたいと考えていました。それで留学生対象の授業だけでなく正規専攻の授業も取りました。お茶大の学生たちと一緒に授業を聞きながら知識を分かち合い、学問的な交流がしたかったからです。勿論専攻と関連した内容を全部日本語で理解することは易しくありませんでした。「自然言語論」の授業の場合、本校に開設されていない専攻だったため、さらに難しく感じられることもありました。ただ、日本語能力の向上と共に学問的見聞を広げることができる良い機会でもありました。そのため、すべての過程に意味を置き、最後まで最善を尽くしました。その結果、「文理融合データサイエンスⅡ」の授業では自らデータを分析して解釈することを通じて実質的な分析能力を育てることができ、「文化情報工学総論」の授業ではデータ分析が活用できる多様な分野を学びながら、将来、私がどんな業種でどんな業務をしたいかを考えることができました。



また、韓国では接しにくい茶道を体験してみたくて茶道部に入りました。最初は単純にお茶と和菓子を楽しみたいという軽い気持ちで始めましたが、先生に直接茶道について教わり、部員たちと茶道会を準備する中で、いつのまにか茶道に本気になっている自分を発見することができました。特に6月にあった水無月茶会では初めて着物を着てお客様にお茶や和菓子を運ぶ役割を担いましたが、留学生でこのような場に立つことができたという事実を未だにありがたく感じます。

学業以外では出来るだけ多くの所に行こうと努力しました。授業がない木曜日には必ず外出し、月に1回は旅行に行くことという自分だけの目標を立ててこれに忠実に行動しました。5月には名古屋に、6月には静岡と沖縄、7月には横浜に行き、普段は東京のあちこちを歩き回りながら自分だけの時間を充実させました。残りの1ヶ月半の間には大阪、京都、鳥取、金沢旅行を計画していますし、まだ行ったことがないディズニーランドや箱根温泉にも行ってみるつもりです。



お茶の水女子大学での生活を無事終えることができたのには、多くの方々の支援がありました。指導教授の森山先生、情熱的に指導して下さった萩原先生、いつも細心の注意を払っていただき、心より感謝申し上げます。いつも親切にしてくださった学校関係者の方々と寮の関係者の方々にも感謝いたします。そしてここでお会いしたお茶の水女子大学の学友たちにも会えて良かったと伝えたいです。本当にありがとうございました。